

授業科目等の概要
(商業実践専門課程 国際ビジネス科 平成31年度)

分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次 学期	授業 時間 数	授業 コマ 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 との 連携
										講 義	実 験 実 習 実 技	演 習	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○				コミュニケーション基礎	基本的なコミュニケーションのための演習	1通	60	30	2	△	○		○	○			
○				コミュニケーション応用	職場での円滑なコミュニケーションのための演習	2通	60	30	2	△	○		○	○			
○				ビジネス日本語A	ビジネス用語、敬語表現の学習、会話演習	1通	60	30	2	○	△		○	○			※
○				ビジネス日本語B	ビジネス会話演習	2通	60	30	2	○	△		○	○			※
○				日本語表現	日本語での文章表現力の強化に向けた演習	1通	60	30	2	△	○		○	○			※
○				日本語総合演習	日本語で理解し、思考し、表現するための演習	1通	60	30	2	△	○		○	△	○	○	
○				パソコン基礎A	ビジネスに必要な入力・表現技法の学習	1通	60	30	2	△	○		○			○	○
○				パソコン基礎B	ビジネスに必要な表及び計算式の作成技法の学習	1通	60	30	2	△	○		○			○	○
○				パソコン応用A	ビジネスに必要なより高度な表現技法の学習	2通	60	30	2	△	○		○			○	○
○				パソコン応用B	ビジネスに必要な表及び計算式の作成及びより高度な処理の学習	2通	60	30	2	△	○		○			○	○
○				就職支援講座A	就職に向けた基礎知識の習得、事前準備	1通	60	30	2	○	△		○	△	○		
○				就職支援講座B	就職目標の設定・職業理解・就職活動スキルの習得	2前	30	15	1	○	△		○	△	○		
○				能力試験対策A(語彙)	JLPTN2語彙の学習、問題演習	1通	60	30	2	○	△		○	○	○		※
○				能力試験対策B(文法)	JLPTN2文法の学習、問題演習	1通	60	30	2	○	△		○	○	○		※
○				能力試験対策C(読解・聴解)	JLPTN2読解・聴解の問題演習	1通	60	30	2	△	○		○	○	○		※
○				能力試験対策D(語彙)	JLPTN1語彙の学習、問題演習	2通	60	30	2	○	△		○	○	○		※
○				能力試験対策E(文法)	JLPTN1文法の学習、問題演習	2通	60	30	2	○	△		○	○	○		※
○				能力試験対策F(読解・聴解)	JLPTN1読解・聴解の問題演習	2通	60	30	2	△	○		○	○	○		※
			○	コミュニケーション英語A	基本的英会話の演習	1通	60	30	2	△	○		○	△	○		
			○	コミュニケーション英語B	応用的英会話の演習	2通	60	30	2	△	○		○	△	○		
○				経営戦略A	経営基礎知識、企業の仕組み、戦略についての学習	1前	30	15	2	○	△		○	○	○		
○				経営戦略B	経営理念、経営戦略モデルについての学習	2前	30	15	2	○	△		○	○	○		
○				マーケティング理論A	マーケティング基本知識の学習及び演習	1後	30	15	2	○	△		○			○	
○				マーケティング理論B	マーケティング理論の発展的学習及び演習	2後	30	15	2	○	△		○			○	
○				簿記A	簿記の基本用語、基礎知識の修得及び基礎演習	1後	30	15	1	○	△		○			○	○
			○	簿記B	基礎知識を基にした発展的演習	2前	30	15	1	○	△		○			○	○
○				会計・財務	決算手続きの学習、決算整理の演習	2後	30	15	1	○	△		○			○	○
			○	貿易実務	貿易実務基礎知識の学習	2後	30	15	1	○			○			○	
○				異文化理解	自国と日本を比較対照し客観的に捉え直す学習	1前	30	15	1	○			○	△	○		
			○	国際理解	世界各国について比較対照し客観的に捉え直す学習	2通	60	30	2	○			○			○	
			○	世界情勢	現代日本を取り巻く世界情勢についての学習	2通	60	30	2	○			○			○	
○				日本観光地理	日本の地理、各地の産業、観光産業についての学習	1通	60	30	2	○			○			○	
○				地域観光産業	長野県の観光産業についての学習	2通	60	30	2	○	△		○	△	○		
○				日本事情	現代日本の社会問題についての学習	1通	60	30	2	○			○			○	
○				ディスカッション	議論の際の表現技法、討論実践演習	2前	30	15	1		○		○			○	
○				スピーチ&プレゼンテーション	基本的なPC操作、スピーチ・発表実践演習	1通	60	30	2		○		○			○	
○				ビジネスプレゼンテーション	企画書、会議資料の作成、発表実践演習	2後	30	15	1	△	○		○			○	
			○	ビジネスマナー	ビジネスに必要なマナー習得に向けた学習	1後	30	15	1	○	△		○			○	△
○				ビジネス検定対策A	就職活動に有益な諸検定合格に向けた学習、問題演習	1通	60	30	2	○	△		○			○	△
			○	ビジネス検定対策B	就職後に有益な諸検定合格に向けた学習、問題演習	2通	60	30	2	○	△		○			○	△
			○	ホスピタリティー	おもてなしの心得についての学習	2前	30	15	1	○	△		○			○	
			○	接客スキル	接客に必要なマナーの学習、実践、POP作成演習	2前	30	15	1	△	○		○			○	
○				卒業研究	学習成果をもとにテーマを設定して研究に取り組む	2後	30	15	1				○	○		○	
				合計					43	科目			1890~2100			単位時間(67~ 74 単位)	

※授業時数欄の1時間は90分授業であるので、1単位時間(45分)換算

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業年限が2年以上で、修得単位が65単位以上。		1学年の学期区分	前・後期
		1学期の授業期間	15週

科名	国際ビジネス科	コース名	国際ビジネスコース	学年・クラス	1F(A)
講義名	コミュニケーション基礎	回数	講義期間	曜日・時限	教室
		15	前期	火2	404
担当者	森 慶子	実務経験	必修・選択	授業形態	単位数
			必修	講・演	1

1. 講義の概要と目的		6. 講義計画(シラバス)			
概要:様々な場面での日常会話を学び、練習する。		No.	日付	授業内容	
目的:日本人とよりよい交流が持てるように、場面ごとに有益な会話表現を身に着ける。		1	4/9	・オリエンテーション ・長音、促音① ・ユニット1 § 1① ・クラスで自己紹介をしよう①	
		2	4/16	・長音、促音② ・ユニット1 § 1② ・クラスで自己紹介をしよう②	
		3	4/23	・拍① ・ユニット2 § 1① ・料理の作り方①	
		4	5/7	・拍② ・ユニット2 § 1② ・料理の作り方②	
2. 目標検定・資格		5	5/21	おさらい① 「自己紹介、他己紹介」	
なし		受験対象			
実施日		6	5/28	・アクセント① ・ユニット3 § 1① 誘う①	
3. 学習上の留意点		7	6/4	・アクセント② ・ユニット3 § 1② 誘う②	
会話はたくさん話さなければ上手になりません。恥ずかしがらずに積極的に発言、練習しましょう。		8	6/11	・イントネーション① ・ユニット4 § 1① 誘いを断る①	
		9	6/18	・イントネーション② ・ユニット4 § 1② 誘いを断る②	
		10	6/25	おさらい② 「友達を誘おう」	
4. テキスト		11	7/2	・総合練習① ・ユニット5 § 1① 慰める	
『shadowing 日本語を話そう 中～上級編(くろしお出版)』		12	7/9	・総合練習② ・ユニット5 § 1② 励ます	
5. 成績評価の方法・基準		13	7/16	・総合練習③ ・ユニット6 § 1 医者に症状を説明する	
出席率80%以上必須、期末試験60%未満は追試		14	7/23	・発音テスト準備① ・なくした物を説明する	
A 総合評価 90点以上		15	7/30	・会話発表準備①	
B 総合評価 70点以上、90点未満				・発音テスト準備②	
C 総合評価 60点以上、70点未満				・会話発表準備②	
D 総合評価 60点未満→単位不認定					
※期末試験の点数(60%)に、検定合否・授業態度(40%)などを加味し、総合的に判断する。					
※再試験については80%の点数をもって、C評価とする。					
		評価	試験週	発音テスト 会話発表	

科名	国際ビジネス科	コース名	国際ビジネスコース	学年・クラス	1F(B)	
講義名	コミュニケーション基礎		回数	講義期間	曜日・時限	教室
			15	前期	火2	501
担当者	江連 麻子		実務経験	必修・選択	授業形態	単位数
				必修	講・演	1

1. 講義の概要と目的		6. 講義計画(シラバス)				
概要: 日本語の文法構造を正しく理解し、日本人に理解してもらえる表現力を養う。		No.	日付	授業内容		
目的: 日本人とよりよい交流が持てるように、日本人に歩み寄ってもらわなくてもすぐに理解してもらえる自然な表現を目指す。併せてうまく理解しあえないときの打開力も磨く。		1	4/9	・オリエンテーション ・表現基礎(描写説明)		
		2	4/16	・表現基礎(描写説明)		
		3	4/23	・表現基礎(描写説明)		
		4	5/7	・表現基礎(自己表現)		
2. 目標検定・資格		5	5/14	・表現基礎(自己表現)		
なし	受験対象	6	5/21	・表現基礎(自己表現)		
実施日		7	5/28	・表現基礎(Q&A)		
3. 学習上の留意点		8	6/4	・表現基礎(Q&A)		
社会で活躍するためには、日常会話ができるだけでは不十分だということを認識し、コミュニケーション力を向上させる意識をもって取り組もう。		9	6/11	・表現基礎(Q&A)		
4. テキスト		10	6/18	・表現基礎(自己表現+Q&A)		
①shadowing 日本語を話そう 中～上級編(くろしお出版)		11	6/25	・表現基礎(自己表現+Q&A)		
		12	7/2	・表現基礎(話し合う)		
5. 成績評価の方法・基準		13	7/9	・表現基礎(話し合う)		
出席率80%以上必須、期末試験60%未満は追試 A 総合評価 90点以上 B 総合評価 70点以上、90点未満 C 総合評価 60点以上、70点未満 D 総合評価 60点未満→単位不認定 ※期末試験の点数(60%)に、検定合否・授業態度(40%)などを加味し、総合的に判断する。 ※再試験については80%の点数をもって、C評価とする。		14	7/16	・グループ別評価		
		15	7/23	・グループ別評価		
		評価試験	なし	グループ別評価を期末試験に充当する。		

科名	国際ビジネス科	コース名	国際ビジネスコース	学年・クラス	2F	
講義名	コミュニケーション応用		回数	講義期間	曜日・時限	教室
			15	前期	火1	402
担当者	江連 麻子		実務経験	必修・選択	授業形態	単位数
				必修	講・演	1

1. 講義の概要と目的		6. 講義計画(シラバス)				
概要:日本人が感覚的に使い分け、且つ頻出でコミュニケーションのカギになる表現を学び、練習する。		No.	日付	授業内容		
目的:表現に込められた意図や日本人の感覚を理解し、同様に表現できるようにする。		1	4/9	・オリエンテーション ・あいさつ		
		2	4/16	・応答、返事をする		
		3	4/23	・問いかける、尋ねる①		
		4	5/7	・問いかける、尋ねる②		
2. 目標検定・資格		5	5/14	・遠慮する		
なし	受験対象	6	5/21	・あいまいな表現		
実施日		7	5/28	・否定する、断る、批判する		
3. 学習上の留意点		8	6/4	・クレーム(文句)を言う		
日常会話から一歩進んで、社会人として求められる大人の会話ができるように練習する。教室で練習しておけば就職後も安心してコミュニケーションがとれるようになるので、積極的に参加すること。		9	6/11	・謝る、釈明する		
4. テキスト		10	6/18	・理解を求める、連帯する		
shadowing 日本語を話そう 中～上級編(くろしお出版) 自作教材		11	6/25	・怒る、叱る、責める		
5. 成績評価の方法・基準		12	7/2	間、イントネーション、非言語		
出席率80%以上必須、期末試験60%未満は追試		13	7/9	模擬会話①		
A 総合評価 90点以上		14	7/16	模擬会話②		
B 総合評価 70点以上、90点未満		15	7/23	模擬会話③		
C 総合評価 60点以上、70点未満				筆記試験		
D 総合評価 60点未満→単位不認定		評価	試験週			
※期末試験の点数(60%)に、検定可否・授業態度、模擬会話のスコア(40%)などを加味し、総合的に判断する。						
※再試験については80%の点数をもって、C評価とする。						

科名	国際ビジネス科	コース名	国際ビジネスコース	学年・クラス	1F		
講義名	ビジネス日本語		回数	講義期間	曜日・時限	教室	
			15	前期	月2	501	
担当者	江連 麻子		実務経験	必修・選択	授業形態	単位数	備考
				必修	演習	2	

1. 講義の概要と目的		6. 講義計画(シラバス)			
概要: ビジネス場面の会話練習をする。前期は敬語の種類やルールも併せて学習する。		No.	日付	授業内容	
目的: 敬語を適切に使い、主にビジネス場面で日本人と円滑なコミュニケーションが取れるようにする。		1	4/8	ビジネスの自己紹介	
2. 目標検定・資格		2	4/15	1課 訪問	
特になし		3	4/22	2課 簡単なあいさつ	
受験対象		4	5/13	3課 誘う	
実施日		5	5/20	4課 お願いする	
3. 学習上の留意点		6	5/27	5課 断る	
よく日本人が使う敬語表現を紹介します。実際に話すときに自然に口から出るくらいまで、たくさん練習しましょう。		7	6/3	6課 申し出る	
4. テキスト		8	6/10	【敬語テスト】	
①初級が終わったら始めよう 新にほんご敬語トレーニング(アスク出版)		9	6/17	7課 お詫びする	
②にほんごで働く! ビジネス日本語30時間(スリーエーネットワーク)		10	6/24	11課 相談を受ける	
5. 成績評価の方法・基準		11	7/1	9課 予約を受ける①	
出席率80%以上必須、期末試験60%未満は追試		12	7/8	9課 予約を受ける②	
A 総合評価 90点以上		13	7/22	10課 サービスの敬語	
B 総合評価 70点以上、90点未満		14	7/29	【会話テスト①】	
C 総合評価 60点以上、70点未満		15	8/2	【会話テスト②】	
D 総合評価 60点未満→単位不認定		評価	なし	会話テストを期末試験に充当する。	
※期末試験の点数(60%)に、検定合否・授業態度(40%)などを加味し、総合的に判断する。		討			
※再試験については80%の点数をもって、C評価とする。					

科名	国際ビジネス科	コース名	国際ビジネスコース	学年・クラス	2F	
講義名	ビジネス日本語B		回数	講義期間	曜日・時限	教室
			15	前期	木1	402
担当者	森 慶子		実務経験	必修・選択	授業形態	単位数
				必修	講・演	2

1. 講義の概要と目的		6. 講義計画(シラバス)				
<p>概要:ウチ、ソトそれぞれ立場でビジネス場面で使われる語彙表現を学習する。</p> <p>目的:ビジネス場面において円滑なコミュニケーションを取るのに必要な日本語語彙・表現を覚える。</p>		No.	日付 授業内容			
2. 目標検定・資格		なし	受験対象	1	4/18	・オリエンテーション ・挨拶①
				2	4/25	・挨拶②
3. 学習上の留意点		いつもの日本語とビジネス日本語は違いがたくさんあって、最初は大変かもしれませんが、しかし、日本で働くためには避けては通れない学習です。実際に自分が働いている場面を想像して授業を受けてください。		3	5/9	・電話対応①
				4	5/16	・電話対応②
4. テキスト		『中級レベルからの実用ビジネス日本語(アルク)』(教師用)		5	5/23	・復習テスト①
				6	5/30	・依頼
5. 成績評価の方法・基準		出席率80%以上必須、期末試験60%未満は追試 A 総合評価 90点以上 B 総合評価 70点以上、90点未満 C 総合評価 60点以上、70点未満 D 総合評価 60点未満→単位不認定 ※期末試験の点数(60%)に、検定合否・授業態度(40%)などを加味し、総合的に判断する。 ※再試験については80%の点数をもって、C評価とする。		7	6/6	・注文
				8	6/13	・誘う
評価試験		試験週		9	6/20	・許可
				10	6/27	・復習テスト②
				11	7/4	・アドバイス
				12	7/11	・情報伝達①
				13	7/18	・情報伝達②
				14	7/25	・復習テスト③
				15	8/1	・会話テスト準備
						・会話テスト

科名	国際ビジネス科	コース名	国際ビジネスコース	学年・クラス	1F		
講義名	日本語表現(EJU)		回数	講義期間	曜日・時限	教室	
			15	前期	水3	404	
担当者	江連 麻子		実務経験	必修・選択	授業形態	単位数	備考
				必修	講・演	1	

1. 講義の概要と目的		6. 講義計画(シラバス)				
概要: EJUで高得点を取るための解答スキルを養う。		No.	日付	授業内容		
目的: 問題数の多いEJUの問題を時間内で十分に理解し、考え、解答できるようにする。		1	4/10	・オリエンテーション ・問題内容説明、レベル確認問題(読解、聴読解、聴解)		
		2	4/17	・読解練習① ・記述練習①		
		3	4/24	・聴解練習① ・聴読解練習①		
		4	5/8	・読解練習② ・記述練習②		
2. 目標検定・資格		5	5/15	・聴解練習② ・聴読解練習②		
EJU(日本語)	受験対象 希望者	6	5/22	・読解練習③ ・記述練習③		
実施日	2019年6月16日、11月10日	7	5/29	・聴解練習③ ・聴読解練習③		
3. 学習上の留意点		8	6/5	・読解演習、解説		
時間内で解答するコツを身につけるには、繰り返し訓練することが肝要。粘り強く、取り組もう。		9	6/19	・読解練習④ ・記述練習④		
4. テキスト		10	6/26	・聴解練習④ ・聴読解練習④		
なし		11	7/3	・読解練習⑤ ・記述練習⑤		
5. 成績評価の方法・基準		12	7/10	・聴解練習⑤ ・聴読解練習⑤		
・出席率80%以上必須 ・総合評価(期末試験60%+授業態度・EJU結果40%) A=90点~100点 B=70点~89点 C=60点~69点 D=0点~59点 ⇒単位不認定		13	7/17	・読解練習⑥ ・記述練習⑥		
※単位不認定の場合、再試験を行い、80点以上でC評価とする。		14	7/24	・聴解練習⑥ ・聴読解練習⑥		
		15	7/31	・予備		
		評価	試験週	模擬試験(記述を除く)		

科名	国際ビジネス科	コース名	国際ビジネスコース	学年・クラス	1F(A)	
講義名	日本語表現(作文)		回数	講義期間	曜日・時限	教室
			15	前期	水3	404
担当者	雫石佳男		実務経験	必修・選択	授業形態	単位数
				必修	演習	1

1. 講義の概要と目的		6. 講義計画(シラバス)				
<p>この講義では自分の考えていることを整理して、読む人に向けて書いて伝える練習をします。社会人になると、手紙からビジネスメールまで大切なことは書き言葉で伝えることになるからです。</p>		No.	日付	授業内容		
		1	4/10	作文演習1		
		2	4/17	作文演習2		
		3	4/24	作文演習3		
		4	5/8	作文演習4		
		2. 目標検定・資格		5	5/15	作文演習5
			受験対象	6	5/22	作文演習6
		実施日		7	5/29	作文演習7
		3. 学習上の留意点		8	6/5	作文演習8
		とくに予習や復習は必要ありません。講義中に書いた作文を成果物として、学習の達成度を評価します。		9	6/19	作文演習9
		4. テキスト		10	6/26	作文演習10
		5. 成績評価の方法・基準		11	7/3	作文演習11
		<p>※ 単位をとるために</p> <p>・講義は15回のうち12回以上、出席しなければなりません。</p> <p>・総合評価が60点より低い人は、もういちど同じテストをうけなければなりません。そして80点より高い点をとらなければなりません。</p> <p>※ 成績の決めかた</p> <p>・講義中に提出した作文を成果点とします</p> <p>(成果点×0.6)+(授業態度×0.4)=総合評価</p> <p>総合評価 90点以上=A 70点以上、90点未満=B 60点以上、70点未満=C</p> <p>再テスト 80点以上=C</p> <p>授業態度とは遅刻や欠席の回数、講義中の電話、ゲーム、カンニングなど迷惑行為のことです。</p>		12	7/10	作文演習12
				13	7/17	作文演習13
				14	7/24	作文演習14
		15	7/31	作文演習15		
		評価試験				

科名	国際ビジネス科	コース名	国際ビジネスコース	学年・クラス	1F(B)
講義名	日本語表現(作文)	回数	講義期間	曜日・時限	教室
		15	前期	水3	501
担当者	森 慶子	実務経験	必修・選択	授業形態	単位数
			必修	演習	1

1. 講義の概要と目的		6. 講義計画(シラバス)		
概要: 作文を書く際のポイントを学びつつ、様々なテーマに関する作文を書く。		No.	日付	授業内容
目的: 伝えたいことを日本語で書けるようにする。また、論理的な組み立てが必要な文章も書けるようにする。		1	4/10	原稿用紙の使い方 作文「自己紹介」
		2	4/17	【作文①】
		3	4/24	1課 助詞の使い方
		4	5/8	【作文②】
2. 目標検定・資格		5	5/15	2課 活用等の間違い
	受験対象	6	5/22	【作文③】
実施日		7	5/29	3課 自動詞・他動詞
3. 学習上の留意点		8	6/5	【作文④】
作文①～⑦と期末レポートは必ず提出してください。自分が言いたいことを日本語でうまく書けるようにがんばりましょう。		9	6/19	3課 受身
		10	6/26	【作文⑤】
4. テキスト		11	7/3	4課 呼応
『留学生のための ここが大切 文章表現のルール(スリーエーネットワーク)』(教師用)		12	7/10	【作文⑥】
5. 成績評価の方法・基準		13	7/17	6課 ひらがなと漢字のバランス
出席率80%以上必須、期末試験(レポート)60%未満は追試		14	7/24	【作文⑦】
A 総合評価 90点以上		15	7/31	7課 漢字の間違い
B 総合評価 70点以上、90点未満				
C 総合評価 60点以上、70点未満				
D 総合評価 60点未満→単位不認定				
※期末試験の点数(60%)に、検定合否・授業態度(40%)などを加味し、総合的に判断する。				
※再試験については80%の点数をもって、C評価とする。				
		評価		
		試験		

科名	国際ビジネス科	コース名	国際ビジネスコース	学年・クラス	1 F(A)	
講義名	日本語総合演習		回数	講義期間	曜日・時限	教室
			15	前期	木2	404
担当者	雫石佳男		実務経験	必修・選択	授業形態	単位数
				必修	講義	1

1. 講義の概要と目的		6. 講義計画(シラバス)					
<p>この講義では日本語を使って「論理的思考力」につながる練習などをします。「論理的思考力」があれば、相手のいいたいことを理解したり、わかりやすくレポートを書いたり、プレゼンテーションをしたりするとき役に立つからです。</p>		No.	日付	授業内容			
		1	4/18	総合演習1			
		2	4/25	総合演習2			
		3	5/9	総合演習3			
		4	5/16	総合演習4			
		2. 目標検定・資格		5	5/23	総合演習5	
			受験対象	6	5/30	総合演習6	
		実施日		7	6/6	総合演習7	
		3. 学習上の留意点		8	6/13	総合演習8	
		この演習を通じて、日本語で考える習慣を身に付けてください。		9	6/20	総合演習9	
				10	6/27	総合演習10	
				11	7/4	総合演習11	
		4. テキスト		12	7/11	総合演習12	
		やさしい論理的思考トレーニング		13	7/18	総合演習13	
		5. 成績評価の方法・基準		14	7/25	総合演習14	
<p>※ 単位をとるために</p> <p>・講義は15回のうち12回以上、出席しなければなりません。</p> <p>・総合評価が60点より低い人は、もういちど同じテストをうけなければなりません。そして80点より高い点をとらなければなりません。</p> <p>※ 成績の決めかた</p> <p>・講義中に提出した演習成果物を成果点とします $(\text{成果点} \times 0.6) + (\text{授業態度} \times 0.4) = \text{総合評価}$ 総合評価 90点以上=A 70点以上、90点未満=B 60点以上、70点未満=C 再テスト 80点以上=C</p> <p>授業態度とは遅刻や欠席の回数、講義中の電話、ゲーム、カンニングなど迷惑行為のことです。</p>		15	8/1	総合演習15			
		評価					
		試験					

科名	国際ビジネス科	コース名	国際ビジネスコース	学年・クラス	1F(B)	
講義名	日本語総合演習		回数	講義期間	曜日・時限	教室
			15	前期	木2	501
担当者	江連 麻子		実務経験	必修・選択	授業形態	単位数
				必修	講義	1

1. 講義の概要と目的		6. 講義計画(シラバス)				
概要:総合的な日本語運用力を伸ばすための学習を行う。		No.	日付	授業内容		
目的:試験で得点するための日本語力ではなく、日々の生活や仕事の中でより豊かな日本語表現ができるように、自ら表現する力を養う。		1	4/18	講義計画説明 第1章 演習1		
		2	4/25	第1章 演習2		
		3	5/9	第1章 演習3		
		4	5/16	第1章 演習4		
2. 目標検定・資格		5	5/23	第2章 演習1		
		受験対象				
実施日		6	5/30	第2章 演習2		
3. 学習上の留意点		7	6/6	第2章 演習3		
表現力を磨くための時間なので、常に「日本語で考え、日本語で表現する」ことを意識してください。		8	6/13	第2章 演習4		
		9	6/20	第2章 演習5		
4. テキスト		10	6/27	第2章 演習6		
やさしい論理的思考トレーニング		11	7/4	第2章 演習7		
5. 成績評価の方法・基準		12	7/11	第2章 演習8		
出席率80%以上必須 A 総合評価 90点以上 B 総合評価 70点以上、90点未満 C 総合評価 60点以上、70点未満 D 総合評価 60点未満→単位不認定 ※日頃の課題への取り組み、発言等の積極性、提出物の評価(60%)に全体的な授業態度など(40%)を加え総合的に判断する。		13	7/18	第2章 演習9		
		14	7/25	第2章 演習10		
		15	8/1	第2章 演習11		
		評価	なし	試験		

科名	国際ビジネス科	コース名	国際ビジネスコース	学年・クラス	1F(A)	
講義名	パソコン基礎A・B		回数	必修・選択	曜日・時限	教室
			30	必修	金3・4	201
担当者	坂口 和江		実務経験	必修・選択	授業形態	単位数
			有	必修	演習	2

1. 講義の概要と目的	6. 講義計画(シラバス)
<p>ビジネスではパソコンを使わない業務はほとんどないと言えるほど一般的になっています。パソコン基礎の授業では、Wordを使い、日本語の入力から文書作成など応用につながる技術を身に付けます。</p>	<p>・4/12 導入</p> <p>・4/19 入力練習</p> <p>・4/26 入力練習</p> <p>・5/10 文書作成(基本1)</p> <p>・5/17 文書作成(基本2)</p> <p>・5/24 文書作成(基本3)</p> <p>・5/31 文書作成(アレンジ1)</p> <p>・6/ 7 文書作成(アレンジ2)</p> <p>・6/14 文書作成(アレンジ3)</p> <p>・6/21 POP作成1</p> <p>・6/28 POP作成2</p> <p>・7/ 5 POP作成3</p> <p>・7/12 まとめ課題1</p> <p>・7/19 まとめ課題2</p> <p>・7/26 まとめ課題3</p>
2. 目標検定・資格	
	受験対象
実施日	
3. 学習上の留意点	
<p>1回1回の授業が大切です。欠席しないよう、健康に留意してください。また、テキストとUSBは必ず持参してください。</p>	
4. テキスト	
必要な時に配布します。	
5. 成績評価の方法・基準	
<p>出席率80%以上必須、検定試験結果60%未満は、 追試</p> <p>A 総合評価 90点以上 B 総合評価 70点以上、90点未満 C 総合評価 60点以上、70点未満 D 総合評価 60点未満</p> <p>※検定試験結果の点数(60%)に、検定合否・授業態度(40%)などを加味し、総合的に判断する。 ※追試については80%の点数をもって、C評価とする</p>	

科名	国際ビジネス科	コース名	国際ビジネスコース	学年・クラス	1F(B)		
講義名	パソコン基礎A		回数	講義期間	曜日・時限	教室	
			15	前期	金3	203	
担当者	竹内 玲子		実務経験	必修・選択	授業形態	単位数	備考
			有	必修	演習	1	

1. 講義の概要と目的		6. 講義計画(シラバス)					
<p>日本語入力をマスターしWordを利用して効率よく、わかりやすいビジネス文書を作成できるようになる。 タイピング練習は基本なので毎時間行う。</p>		No.	日付	授業内容			
		1	4/12	Windowsの基本 タイピングソフトを利用した練習			
		2	4/19	タイピング練習(文字・記号の入力)			
		3	4/26	タイピング練習(漢字変換) 文章の入力			
		4	5/10	書式設定・印刷・保存			
		2. 目標検定・資格		5	5/17	Wordの活用 編集機能	
			受験対象	6	5/24	Wordの活用 表の作成	
		実施日		7	5/31	Wordの活用 表の編集	
		3. 学習上の留意点		8	6/7	Wordの活用 画像・ワードアートの活用	
		<p>文字を入力できるようになることが基本です。 まずタイピングソフトなどを利用して日本語でタイピングができるようになりましょう。 タイピングがしっかりできるようになるとすべての操作がスムーズにできるようになります。</p>		9	6/14	Wordの活用 テキストボックス・図形の活用	
				10	6/21	ビジネス文書の作成(社内文書) ページ設定について	
				11	6/28	ビジネス文書の作成(社外文書)	
		4. テキスト		12	7/5	Wordの機能を活用した文書作成	
		30時間でマスター Word&Excel2016		13	7/12	Wordの機能を活用した文書作成	
		5. 成績評価の方法・基準		14	7/19	Wordの機能を活用した文書作成	
<p>出席率80%以上必須、期末試験60%未満は追試 A 総合評価 90点以上 B 総合評価 70点以上、90点未満 C 総合評価 60点以上、70点未満 D 総合評価 60点未満→単位不認定 ※期末試験の点数(60%)に、検定合否・授業態度(40%)などを加味し、総合的に判断する。 ※再試験については80%の点数をもって、C評価とする。</p>		15	7/26	確認テスト			
		評価 試験					

科名	国際ビジネス科	コース名	国際ビジネスコース	学年・クラス	1F(B)		
講義名	パソコン基礎B		回数	講義期間	曜日・時限	教室	
			15	前期	金4	203	
担当者	竹内 玲子		実務経験	必修・選択	授業形態	単位数	備考
			有	必修	演習	1	

1. 講義の概要と目的		6. 講義計画(シラバス)					
<p>Excelは、Wordとは違った効率のよい表の作成から表計算機能を活用した複雑な計算の処理 グラフ機能を利用したわかりやすいデータの作成など、さまざまなことが簡単に処理できる。 この機能を活用しビジネスでよく使われる書式などを学ぶ。</p>		No.	日付	授業内容			
		1	4/12	Excel操作の基本 データ入力の基礎			
		2	4/19	入力練習 簡単な表の作成			
		3	4/26	入力練習 簡単な表の作成			
		4	5/10	基本的なワークシートの編集・保存 (移動・コピー・データの修正)			
		2. 目標検定・資格		5	5/17	ワークシートの書式設定 列幅・行の高さの変更、表示形式 文字の配置とフォント	
				受験対象			
		実施日		6	5/24	ワークシートの書式設定 罫線・塗りつぶし	
		3. 学習上の留意点		7	5/31	グラフの作成 グラフの用途と基本構成	
		1つ1つの機能をしっかり理解して どう活用できるかを、さまざまな書式を利用して覚えていきましょう。		8	6/7	グラフの作成 棒グラフ・円グラフの作成	
				9	6/14	グラフ設定の変更 さまざまなグラフの作成	
				10	6/21	ページ設定・印刷	
		4. テキスト		11	6/28	オートSUMボタンの利用 SUMを利用した合計の計算	
		30時間でマスター Word&Excel2016		12	7/5	オートSUMボタンの利用 AVERAGEを利用した平均の計算	
		5. 成績評価の方法・基準		13	7/12	計算式(合計・平均)の入った表作成	
<p>出席率80%以上必須、期末試験60%未満は追試 A 総合評価 90点以上 B 総合評価 70点以上、90点未満 C 総合評価 60点以上、70点未満 D 総合評価 60点未満→単位不認定 ※期末試験の点数(60%)に、検定合否・授業態度(40%)などを加味し、総合的に判断する。 ※再試験については80%の点数をもって、C評価とする。</p>		14	7/19	計算式(合計・平均)の入った表作成			
		15	7/26	確認テスト			
		評価 試験					

科名	国際ビジネス科	コース名	国際ビジネスコース	学年・クラス	2F	
講義名	パソコン応用A・B		回数	必修・選択	曜日・時限	教室
			30	必修	月1、水2	201
担当者	坂口 和江		実務経験	必修・選択	授業形態	単位数
			有	必修	演習	2

1. 講義の概要と目的	6. 講義計画(シラバス)
ビジネスではパソコンを使わない業務はほぼないと言えるほど一般的になっています。パソコン応用の授業の中では、まずあらゆる業務のなかで使用されているExcel技能を身に着けます。作成物を作るだけでなく、合理的にかつ精度の高い処理を行うための講義を行います。	4/8・10 ワークシートへの入力 4/15・17 ワークシートの設定 4/22・24 計算式 5/8・13 関数① 5/15・20 関数② 5/22・27 表の作成 5/29・6/3 並べ替え
2. 目標検定・資格	6/5・10 課題1対策①
コンピュータサービス技能評価試験表計算部門3級	6/17・19 課題1対策②
受験対象 全員	6/24・26 課題2対策①
実施日	6/24・26 課題2対策①
3. 学習上の留意点	7/1・3 課題2対策②
1回1回の授業が大切です。欠席しないよう、健康に留意してください。また、テキストとUSBは必ず持参してください。	7/8・10 課題3対策①
	7/17・22 課題3対策②
	7/24・29 検定対策・模擬問題①
	7/31・8/2 検定対策・模擬問題②
4. テキスト	
九州文化出版 CS技能評価試験 受験対策練習問題集 表計算部門3級	
5. 成績評価の方法・基準	
出席率80%以上必須、検定試験結果60%未満は、 追試 A 総合評価 90点以上 B 総合評価 70点以上、90点未満 C 総合評価 60点以上、70点未満 D 総合評価 60点未満 ※検定試験結果の点数(60%)に、検定合否・授業態度(40%)などを加味し、総合的に判断する。 ※追試については80%の点数をもって、C評価とする	

科名	国際ビジネス科	コース名	国際ビジネスコース	学年・クラス	2F
講義名	パソコン応用A・B	回数	必修・選択	曜日・時限	教室
		30	必修	月1、水2	201
担当者	坂口 和江	実務経験	必修・選択	授業形態	単位数
		有	必修	演習	2

1. 講義の概要と目的	6. 講義計画(シラバス)
ビジネスではパソコンを使わない業務はほぼないと言えるほど一般的になっています。パソコン応用の授業の中では、まずあらゆる業務のなかで使用されているExcel技能を身に着けます。作成物を作るだけでなく、合理的にかつ精度の高い処理を行うための講義を行います。	4/8・10 ワークシートへの入力 4/15・17 ワークシートの設定 4/22・24 計算式 5/8・13 関数① 5/15・20 関数② 5/22・27 表の作成 5/29・6/3 並べ替え
2. 目標検定・資格	6/5・10 課題1対策①
コンピュータサービス技能評価試験表計算部門3級	6/17・19 課題1対策②
受験対象 全員	6/24・26 課題2対策①
実施日	6/24・26 課題2対策①
3. 学習上の留意点	7/1・3 課題2対策②
1回1回の授業が大切です。欠席しないよう、健康に留意してください。また、テキストとUSBは必ず持参してください。	7/8・10 課題3対策①
	7/17・22 課題3対策②
	7/24・29 検定対策・模擬問題①
	7/31・8/2 検定対策・模擬問題②
4. テキスト	
九州文化出版 CS技能評価試験 受験対策練習問題集 表計算部門3級	
5. 成績評価の方法・基準	
出席率80%以上必須、検定試験結果60%未満は、 追試 A 総合評価 90点以上 B 総合評価 70点以上、90点未満 C 総合評価 60点以上、70点未満 D 総合評価 60点未満 ※検定試験結果の点数(60%)に、検定合否・授業態度(40%)などを加味し、総合的に判断する。 ※追試については80%の点数をもって、C評価とする	

科名	国際ビジネス科	コース名	国際ビジネスコース	学年・クラス	1F	
講義名	就職支援講座A		回数	講義期間	曜日・時限	教室
			15	前期	金2	501
担当者	江連 麻子		実務経験	必修・選択	授業形態	単位数
				必須	講・演	1

1. 講義の概要と目的		6. 講義計画(シラバス)				
<p>概要: 在籍期間中の内定を目指し、就職に必要な知識、準備について学ぶ。</p> <p>目的: 就職活動について、日本企業の業界や仕事内容について知り、自らの適性や志望に基づき、適切な時期に適切な就職活動が行えるようにする。</p>		No.	日付	授業内容		
		1	4/12	①日本の就職活動全体の流れ②留学生の日本企業への就職事情③日本企業が求める留学生とは④雇用形態と採用⑤在留資格(就労ビザ)について		
2. 目標検定・資格		2	4/19	自己分析 ①自分の強み・弱み・性格・価値観		
		3	4/26			
<p>実施日</p>		4	5/10	①業界を知る ②企業を知る ③職種を知る ④適性を知る		
		5	5/17			
3. 学習上の留意点		6	5/24	自己分析②将来の目標 ③他者分析・過去分析・未来分析		
		7	5/31	エントリーシートの書き方のポイント ①自己PRの書き方 ②志望動機の書き方 ③学生時代に力を注いだこと		
4. テキスト		8	6/7			
		9	6/14			
留學生のための就職活動ハンドブック(プリント)		10	6/21	履歴書の書き方①基本事項・経歴欄 履歴書作成		
		11	6/28			
5. 成績評価の方法・基準		12	7/5			
		13	7/12	履歴書の書き方②自己PR・志望動機 履歴書作成		
<p>出席率80%以上必須、期末試験60%未満は追試</p> <p>A 総合評価 90点以上</p> <p>B 総合評価 70点以上、90点未満</p> <p>C 総合評価 60点以上、70点未満</p> <p>D 総合評価 60点未満→単位不認定</p> <p>※期末試験の点数(60%)に、検定合否・授業態度(40%)などを加味し、総合的に判断する。</p> <p>※再試験については80%の点数をもって、C評価とする。</p>		14	7/19			
		15	7/26	履歴書作成		
		評価 試験	なし	作成した履歴書を期末試験に充当する。		

科名	国際ビジネス科	コース名	国際ビジネスコース	学年・クラス	2F
講義名	就職支援講座B		回数	講義期間	曜日・時限
			15	前期	金3
担当者	森・柳澤		実務経験	必修・選択	授業形態
				必修	講・演
					単位数
					2
					備考

1. 講義の概要と目的	6. 講義計画(シラバス)			
卒業までの1年間の間に内定獲得を目指して、積極的に就職活動を行なえる指導をしていく。また、ビジネスレターやビジネスメールの書き方を学び、社会人に必要なビジネスマナーを身につける。	No.	日付	授業内容	
	1	4/12	就活プラン・履歴書修正	
	2	4/19	履歴書修正	
	3	4/26	会社説明会(仮)	
	4	5/10	企業研究と求人検索、エントリーシート	
	2. 目標検定・資格	5	5/17	送付状作成 封筒の書き方
		受験対象		
	実施日	6	5/24	送付状作成 封筒の書き方
	3. 学習上の留意点	7	5/31	面接練習①(復習)
	早期就職内定を目標に自ら積極的に活動するよう努力してください	8	6/7	面接練習②(復習)
	4. テキスト	9	6/14	ビジネスレター作成
	しごとの日本語 ビジネスマナー編	10	6/21	ビジネスレター作成
	5. 成績評価の方法・基準	11	6/28	ビジネスレター作成
	出席率80%以上必須、期末試験60%未満は追試	12	7/5	ビジネスEメール作成 ・基本構成(宛名・CC/BCC・件名・添付ファイル・あいさつ文・結びの文)・便利なフレーズ・メールの注意点
	A総合評価 90点以上	13	7/12	
B総合評価70点以上、90点未満	14	7/19		
C総合評価60点以上、70点未満	15	7/26	ビジネスレター・ビジネスメール テスト	
D総合評価60点未満→単位不認定				
※期末試験の点数(60%)に、検定合否・授業態度(40%)などを加味し、総合的に判断する。	評価			
※再試験については80%の点数をもってC評価とする。	試			

科名	国際ビジネス科	コース名	国際ビジネスコース	学年・クラス	1F・2F	
講義名	日本語語彙		回数	講義期間	曜日・時限	教室
			15	前期	火3	402
担当者	雫石佳男		実務経験	必修・選択	授業形態	単位数
				必修	講・演	1

1. 講義の概要と目的		6. 講義計画(シラバス)			
<p>この講義では、N2レベルの語彙をピックアップして解説します。目的は講義終了までに、JLPTのN2レベルの学習能力を身につけるためです。</p> <p>2. 目標検定・資格</p> <p>JLPT N2</p> <p>受験対象 全員</p> <p>実施日 7/7, 12/1</p> <p>3. 学習上の留意点</p> <p>学習を深めるために講義後に課題をだします。この講義のあいだにJLPTが2回ありますから、<u>はやくN2に合格したい人は、自分でテキストを勉強してください。</u></p> <p>4. テキスト</p> <p>N2合格 日本語能力試験問題集 語彙 スピードマスター</p> <p>5. 成績評価の方法・基準</p> <p>※ 単位をとるために ・講義は15回のうち12回以上、出席しなければなりません。 ・総合評価が60点より低い人は、もういちど同じテストをうけなければなりません。そして80点より高い点をとらなければなりません。 ※ 成績の決めかた ・提出した課題と期末テストの点を評価点とします。 (評価点×0.6)+(授業態度×0.4)=総合評価 総合評価 90点以上=A 70点以上、90点未満=B 60点以上、70点未満=C 再テスト 80点以上=C 授業態度とは遅刻や欠席の回数、講義中の電話、ゲーム、カンニングなど迷惑行為のことです。</p>		No.	日付	授業内容	
		1	4/9	オリエンテーション	
		2	4/16	1課、23課	
		3	4/23	2課、24課	
		4	5/7	3課、25課	
		5	5/21	4課、26課	
		6	5/28	5課、27課	
		7	6/4	6課、28課	
		8	6/11	7課、29課	
		9	6/18	模擬テスト	
		10	6/25	模擬テスト	
		11	7/2	模擬テスト	
		12	7/9	8課、30課	
		13	7/16	9課、31課	
		14	7/23	10課、32課	
15	7/30	11課、33課			
		評価 試験	試験週	筆記試験	

科名	国際ビジネス科	コース名	国際ビジネスコース	学年・クラス	1F・2F	
講義名	日本語語彙		回数	講義期間	曜日・時限	教室
			15	前期	火3	501
担当者	森 実紀		実務経験	必修・選択	授業形態	単位数
				必修	講・演	1
						備考 N3 レベル分け授業

1. 講義の概要と目的	6. 講義計画(シラバス 変更になる場合があります)		
この講義ではJLPTのためにN3レベルの漢字と語彙を学習します。 目的はN3に合格する力をつけることです。	No.	日付	授業内容
	1	4/9	漢字: 第1回 語彙: 1,2
	2	4/16	漢字: 第2回 語彙: 3,4
	3	4/23	漢字: 第3回 語彙: 5,6
	4	5/7	漢字: 第4回 語彙: 7,8
2. 目標検定・資格	5	5/21	第1回模試
JLPT N3			模試FB
			復習
受験対象 全員	6	5/28	漢字: 第5回 語彙: 9,10
実施日 7/7,12/1	7	6/4	漢字: 第6回 語彙: 11,12
3. 学習上の留意点	8	6/11	漢字: 第7回 語彙: 13,14
漢字や語彙は授業で1回勉強してもおぼえられません。 予習復習やまちがえた問題の見直しなど、同じところを何回も勉強しておぼえるようにしましょう。	9	6/18	第2回模試
	10	6/25	模試FB
4. テキスト	11	7/2	漢字: 卷末実力テスト1 語彙: 卷末第1回模擬試験
①新完全マスター漢字 日本語能力試験N3	12	7/9	漢字: 第8回 語彙: 15,16
5. 成績評価の方法・基準	13	7/16	漢字: 第9回 語彙: 17,18
出席率80%以上必須、期末試験60%未満は追試 A 総合評価 90点以上 B 総合評価 70点以上、90点未満 C 総合評価 60点以上、70点未満 D 総合評価 60点未満→単位不認定 ※期末試験の点数(60%)に、検定合否・授業態度(40%)などを加味し、総合的に判断する。 ※再試験については80%の点数をもって、C評価とする。	14	7/23	漢字: 第10回 語彙: 19,20
	15	7/30	漢字: 第11回 語彙: 21,22
	評価 試験週		筆記試験

科名	国際ビジネス科	コース名	国際ビジネスコース	学年・クラス	1F・2F	
講義名	日本語文法		回数	講義期間	曜日・時限	教室
			15	前期	水1	402
担当者	雫石佳男		実務経験	必修・選択	授業形態	単位数
				必修	講・演	1

1. 講義の概要と目的		6. 講義計画(シラバス)			
<p>この講義では、N2レベルの文法をピックアップして解説します。目的は講義終了までに、JLPTのN2レベルの学習能力を身につけるためです。</p> <p>2. 目標検定・資格</p> <p>JLPT N2</p> <p>受験対象 全員</p> <p>実施日 7/7, 12/1</p> <p>3. 学習上の留意点</p> <p>学習を深めるために講義後に課題をだします。この講義のあいだにJLPTが2回ありますから、はやくN2に合格したい人は、自分でテキストを勉強してください。</p> <p>4. テキスト</p> <p>日本語能力試験対策日本語総まとめN2 文法</p> <p>5. 成績評価の方法・基準</p> <p>※ 単位をとるために ・講義は15回のうち12回以上、出席しなければなりません。 ・総合評価が60点より低い人は、もういちど同じテストをうけなければなりません。そして80点より高い点をとらなければなりません。 ※ 成績の決めかた ・提出した課題と期末テストの点を評価点とします。 (評価点×0.6)+(授業態度×0.4)=総合評価 総合評価 90点以上=A 70点以上、90点未満=B 60点以上、70点未満=C 再テスト 80点以上=C 授業態度とは遅刻や欠席の回数、講義中の電話、ゲーム、カンニングなど迷惑行為のことです。</p>		No.	日付	授業内容	
		1	4/10	オリエンテーション	
		2	4/17	第1週	
		3	4/24	第1週	
		4	5/8	第1週	
		5	5/15	第2週	
		6	5/22	第2週	
		7	5/29	第2週	
		8	6/5	第3週	
		9	6/19	模擬テスト	
		10	6/26	模擬テスト	
		11	7/3	模擬テスト	
		12	7/10	第3週	
		13	7/17	第3週	
		14	7/24	第4週	
15	7/31	第4週			
評価 試験	試験週	筆記試験			

科名	国際ビジネス科	コース名	国際ビジネスコース	学年・クラス	1F・2F	
講義名	日本語文法		回数	講義期間	曜日・時限	教室
			15	前期	水1	501
担当者	森 実紀		必修・選択	授業形態	単位数	備考
			必修	講・演	1	N3 レベル分け授業

1. 講義の概要と目的		6. 講義計画(シラバス 変更になる場合があります)		
<p>この講義ではJLPTのためにN3レベルの文法を学習します。 目的はN3に合格する力をつけることです。</p> <p>2. 目標検定・資格</p> <p>JLPT N3</p> <p>受験対象 全員</p> <p>実施日 7/7,12/1</p> <p>3. 学習上の留意点</p> <p>1回の授業で4～5個の文法を学習します。 文法も漢字や語彙と同じで、使わなければ覚えられません。 授業内外で実際に例文を作ってみて、正しく使えるようになりましょう。</p> <p>4. テキスト</p> <p>新完全マスター文法 日本語能力試験N3</p> <p>5. 成績評価の方法・基準</p> <p>出席率80%以上必須、期末試験60%未満は追試 A 総合評価 90点以上 B 総合評価 70点以上、90点未満 C 総合評価 60点以上、70点未満 D 総合評価 60点未満→単位不認定 ※期末試験の点数(60%)に、検定合否・授業態度(40%)などを加味し、総合的に判断する。 ※再試験については80%の点数をもって、C評価とする。</p>		No.	日付	授業内容
		1	4/10	第1部 1課
		2	4/17	第1部 2課
		3	4/24	第1部 3課
		4	5/8	第1部 4課
		5	5/15	まとめ問題
		6	5/22	第1部 5課
		7	5/29	第1部 6課
		8	6/5	第1部 7課
		9	6/19	第1部 8課
		10	6/26	まとめ問題
		11	7/3	模試
		12	7/10	第1部 9課
		13	7/17	第1部 10課
		14	7/24	第1部 11課
15	7/31	第1部 12課		
評価 週	試験 週	筆記試験		

科名	国際ビジネス科	コース名	国際ビジネスコース	学年・クラス	1F・2F	
講義名	日本語聴読解		回数	講義期間	曜日・時限	教室
			15	前期	火4	402
担当者	栗石佳男		実務経験	必修・選択	授業形態	単位数
				必修	講・演	1

1. 講義の概要と目的		6. 講義計画(シラバス)			
<p>この講義では、N2レベルの読解問題を練習します。プリントで聴解問題の練習もします。目的は講義終了までに、JLPTのN2レベルの学習能力を身につけるためです。</p> <p>2. 目標検定・資格</p> <p>JLPT N2</p> <p>受験対象 全員</p> <p>実施日 7/7, 12/1</p> <p>3. 学習上の留意点</p> <p>この講義のあいだにJLPTが2回ありますから、<u>はやくN2に合格したい人は、自分でテキストを勉強してください。</u></p> <p>4. テキスト</p> <p>日本語能力試験対策 日本語総まとめ N2</p> <p>5. 成績評価の方法・基準</p> <p>※ 単位をとるために ・講義は15回のうち12回以上、出席しなければなりません。</p> <p>・総合評価が60点より低い人は、もういちど同じテストをうけなければなりません。そして80点より高い点をとらなければなりません。</p> <p>※ 成績の決めかた ・期末テストの点を評価点とします。 (評価点×0.6)+(授業態度×0.4)=総合評価 総合評価 90点以上=A 70点以上、90点未満=B 60点以上、70点未満=C 再テスト 80点以上=C 授業態度とは遅刻や欠席の回数、講義中の電話、ゲーム、カンニングなど迷惑行為のことです。</p>		No.	日付	授業内容	
		1	4/9	オリエンテーション	
		2	4/16	第1週、第4週 1日目 聴解実戦練習	
		3	4/23	第2週、第5週 1日目 聴解実戦練習	
		4	5/7	第3週、第6週 1日目 聴解実戦練習	
		5	5/21	第1週、第4週 2日目 聴解実戦練習	
		6	5/28	第2週、第5週 2日目 聴解実戦練習	
		7	6/4	第3週、第6週 2日目 聴解実戦練習	
		8	6/11	第1週、第4週 3日目 聴解実戦練習	
		9	6/18	模擬テスト	
		10	6/25	模擬テスト	
		11	7/2	模擬テスト	
		12	7/9	第2週、第5週 3日目 聴解実戦練習	
		13	7/16	第3週、第6週 3日目 聴解実戦練習	
		14	7/23	第1週、第4週 4日目 聴解実戦練習	
15	7/30	第2週、第5週 4日目 聴解実戦練習			
評価 試験	試験週	筆記試験			

科名	国際ビジネス科	コース名	国際ビジネスコース	学年・クラス	1F・2F
講義名	日本語聴読解		回数	講義期間	曜日・時限
			15	前期	火4
担当者	森 実紀		実務経験	必修・選択	授業形態
				必修	講・演
					単位数
					1
					備考
					N3 レベル分け授業

1. 講義の概要と目的		6. 講義計画(シラバス 変更になる場合があります)	
この講義ではJLPTのためにN3レベルの聴解と読解を学習します。 目的はN3に合格する力をつけることです。		No.	日付
		1	4/9
		授業内容	
		聴解:問題紹介 読解:第1部 1	
		2	4/16
		聴解: I-1-A 読解:第1部 1-1)~3)	
		3	4/23
		聴解: I-1-B 読解:第1部 2-4)~6)	
		4	5/7
		聴解: I-1-C 読解:第1部 2-7)~9)	
2. 目標検定・資格		第1回模試	
JLPT N3	受験対象	5	5/21
	全員	模試FB	
実施日	7/7,12/1	6	5/28
		復習	
3. 学習上の留意点		7	6/4
学生がJLPTで一番苦手だというのが読解です。 わからないから読めないと思わないで、答えのさがし方をおぼえましょう。 それから、わからない漢字や言葉を調べて、わかる言葉をふやすことも大切です。 調べて覚える勉強は自分でしましょう。 聴解で大切なことはメモしながら聞くことです。		聴解: I-2 読解:第2部 1)~3)	
		8	6/11
		聴解: I-3 聴解:第2部 4)5)	
		9	6/18
		聴解: II-1 読解:第2部 6)7)	
		10	6/25
		第2回模試	
4. テキスト		11	7/2
①新完全マスター聴解 日本語能力試験N3 ②新完全マスター読解 日本語能力試験N3		模試FB	
		復習	
5. 成績評価の方法・基準		12	7/9
出席率80%以上必須、期末試験60%未満は追試 A 総合評価 90点以上 B 総合評価 70点以上、90点未満 C 総合評価 60点以上、70点未満 D 総合評価 60点未満→単位不認定 ※期末試験の点数(60%)に、検定合否・授業態度(40%)などを加味し、総合的に判断する。 ※再試験については80%の点数をもって、C評価とする。		聴解: II-2-A 読解:第3部 1)2)	
		13	7/16
		聴解: II-2-B 読解:第3部 3)4)	
		14	7/23
		聴解: II-3 読解:第3部 5)6)	
		15	7/30
		聴解: II-4、確認問題 読解:第3部 7)8)	
		評価	試験週
		筆記試験(聴解・読解)	

科名	国際ビジネス科	コース名	国際ビジネスコース	学年・クラス	1F・2F	
講義名	日本語語彙		回数	講義期間	曜日・時限	教室
			15	前期	火3	404
担当者	江連 麻子		実務経験	必修・選択	授業形態	単位数
				必修	講・演	1

1. 講義の概要と目的		6. 講義計画(シラバス)			
概要: 日本語能力試験対策として、N1レベルの漢字および語彙を学習する。		No.	日付	授業内容	
目的: N1合格を目標とし、重要語彙、頻出語彙の意味を整理すると共に、使用語彙となるよう用法も比較対照しながら学ぶ。		1	4/9	・オリエンテーション ・漢字: 第1回① 動詞の漢字 ・語彙: 第1週 1日目	
		2	4/16	・漢字: 第1回② ・語彙: 第1週 2日目	
		3	4/23	・漢字: 第2回① ・語彙: 第1週 3・4日目	
		4	5/7	・漢字: 第2回② ・語彙: 第1週 5・6日目	
2. 目標検定・資格		5	5/21	・漢字: 第3回 ・語彙: 第2週 1・2日目	
日本語能力試験(国際交流基金・日本国際教育支援協会主催)		6	5/28	・漢字: 第4回① ・語彙: 第2週 3・4日目	
受験対象 全員		7	6/4	・漢字: 第4回② ・語彙: 第2週 5・6日目	
実施日 2017年7月2日、12月3日		8	6/11	・漢字: 第5回 ・語彙: 第1・2週復習	
3. 学習上の留意点		9	6/18	・漢字: 第6回① ・語彙: 第3週 1・2日目	
1回の講義で、非常に多くの漢字・語彙を取り上げるため、「〇〇と××は何が違うのか」、「自分の辞書で調べた意味と違うみたいだ」など、疑問があれば積極的に質問することが望ましい。毎回、振り返りの小テストを実施する。		10	6/25	・漢字: 第6回② ・語彙: 第3週 3・4日目	
4. テキスト		11	7/2	・漢字: 第7回 い形容詞の漢字 ・語彙: 第3週 5・6日目	
①新完全マスター漢字 日本語能力試験N1(スリーエーネットワーク) ②「日本語能力試験対策」日本語総まとめ N1 語彙(アスク出版)		12	7/9	・漢字: 第8回 な形容詞・副詞・その他の漢字 ・語彙: 第4週 1・2日目	
5. 成績評価の方法・基準		13	7/16	・漢字: 第9回 名詞の漢字 ・語彙: 第4週 3・4日目	
出席率80%以上必須、期末試験60%未満は追試 A 総合評価 90点以上 B 総合評価 70点以上、90点未満 C 総合評価 60点以上、70点未満 D 総合評価 60点未満→単位不認定 ※期末試験の点数(60%)に、検定合否・小テスト結果・授業態度(40%)などを加味し、総合的に判断する。 ※再試験については80%の点数をもって、C評価とする。		14	7/23	・漢字: 第10回 ・語彙: 第4週 5・6日目	
		15	7/29	・漢字: 第11回 ・語彙: 第3・4週復習	
		評価 試験	試験 週	模擬試験	

科名	国際ビジネス科	コース名	国際ビジネスコース	学年・クラス	1F・2F	
講義名	日本語文法		回数	講義期間	曜日・時限	教室
			15	前期	水1	404
担当者	江連 麻子		実務経験	必修・選択	授業形態	単位数
				必修	講・演	1

1. 講義の概要と目的		6. 講義計画(シラバス)	
概要: 日本語能力試験対策として、N1レベルの文法を学習する。		No.	日付 授業内容
目的: N1合格を目標として文法知識の整理を行い、解答の選択力を養う。試験後にも役立つ知識となるように、N1文法の用法・実際の使用場面も積極的に学んでいく。		1	4/10 ・オリエンテーション ・第1週
		2	4/17 第1週
		3	4/24 第1週
		4	5/8 第1週
2. 目標検定・資格		5	5/15 第2週
日本語能力試験(国際交流基金・日本国際教育支援協会主催)	受験対象 全員	6	5/22 第2週
実施日	2019年7月7日、12月1日	7	5/29 第2週
3. 学習上の留意点		8	6/5 第2週
文法の理解をより深めるためにも、予習復習をすること。1回の講義で原則として4つの文法項目について学習し、毎回振り返りの小テストを実施する。		9	6/19 第2週、第3週
4. テキスト		10	6/26 第3週
45日間で完全マスター 日本語能力試験対策 N1 文法総まとめ(三修社)		11	7/3 第3週
		12	7/10 第3週
5. 成績評価の方法・基準		13	7/17 第3週、第4週
出席率80%以上必須、期末試験60%未満は追試		14	7/24 第4週
A 総合評価 90点以上		15	7/31 第4週
B 総合評価 70点以上、90点未満			
C 総合評価 60点以上、70点未満		評価試験 模擬試験	
D 総合評価 60点未満→単位不認定		試験週	
※期末試験の点数(60%)に、検定合否・小テスト結果・授業態度(40%)などを加味し、総合的に判断する。			
※再試験については80%の点数をもって、C評価とする。			

科名	国際ビジネス科	コース名	国際ビジネスコース	学年・クラス	1F・2F	
講義名	日本語読解・聴解		回数	講義期間	曜日・時限	教室
			15	前期	火4	404
担当者	江連 麻子		実務経験	必修・選択	授業形態	単位数
				必修	講・演	1

1. 講義の概要と目的		6. 講義計画(シラバス)				
<p>概要: 日本語能力試験対策として、N1レベルの読解・聴解の解き方を学習し、問題演習を行う。</p> <p>目的: N1合格を目指す。前期は解き方のコツを身につけ、後期からは問題をたくさん解き12月の試験に備える。</p>		No.	日付	授業内容		
<p>2. 目標検定・資格</p> <p>日本語能力試験(国際交流基金・日本国際教育支援協会主催) 受験対象 全員 実施日 2017年7月2日、12月3日</p> <p>3. 学習上の留意点</p> <p>読解問題や聴解問題の解答にはスキルを身につけることが重要です。得点を伸ばすためのスキルを養います。予習は必要ありませんが、読解・聴解問題でわからなかった語彙があれば、後でよく復習しておきましょう。</p> <p>4. テキスト</p> <p>①「日本語能力試験」対策 日本語総まとめ N1 読解(アスク出版) ②新完全マスター聴解 日本語能力試験N1(スリーエーネットワーク)</p> <p>5. 成績評価の方法・基準</p> <p>出席率80%以上必須、期末試験60%未満は追試 A 総合評価 90点以上 B 総合評価 70点以上、90点未満 C 総合評価 60点以上、70点未満 D 総合評価 60点未満→単位不認定 ※期末試験の点数(60%)に、検定合否・授業態度(40%)などを加味し、総合的に判断する。 ※再試験については80%の点数をもって、C評価とする。</p>		1	4/9	・オリエンテーション ・読解: 第1週 ① ・聴解: 問題紹介		
		2	4/16	・読解: 第1週 ② ・聴解: 即時応答 ①		
		3	4/23	・読解: 第2週 ① ・聴解: 即時応答 ②		
		4	5/7	・読解: 第2週 ② ・聴解: 課題理解 ①		
		5	5/21	・読解: 第3週 ① ・聴解: 課題理解 ②		
		6	5/28	・読解: 第3週 ② ・聴解: ポイント理解 ①		
		7	6/4	・読解: 第4週 ① ・聴解: ポイント理解 ②		
		8	6/11	・読解: 第4週 ② ・聴解: 概要理解 ①		
		9	6/18	・読解: ミニ模擬試験 ・聴解: 概要理解 ②		
		10	6/25	・読解: ミニ模擬試験FB ・聴解: 統合理解 ①		
		11	7/2	・読解: 第5週 ① ・聴解: 統合理解 ②		
		12	7/9	・読解: 第5週 ② ・聴解: 直前練習		
		13	7/16	・読解: 第6週 ① ・聴解: 予備		
		14	7/23	・読解: 第6週 ② ・聴解: 予備		
		15	7/30	・読解: 第6週 ③ ・聴解: 予備		
評価	試験週	模擬試験				

科名	国際ビジネス科	コース名	国際ビジネスコース	学年・クラス	1F(A)	
講義名	経営戦略A		回数	講義期間	曜日・時限	教室
			15	前期	月3	404
担当者	坂口 和江		実務経験	必修・選択	授業形態	単位数
				必修	講・演	2

1. 講義の概要と目的		6. 講義計画(シラバス)				
<p>経営についての基礎知識を学びます。企業の仕組みや戦略などを体系的に理解するための授業と、グループワークを行います。グループワークでは、意見を出し合い、情報を集め、資料を作成して発表を行うことで理解をより深める目的があります。最終的にグループにて独自のビジネスモデルを考え、発表することが目標です。</p>		No.	日付	授業内容		
		1	4/8	授業概要説明 グループ分け		
		2	4/15	企業の仕組み 経営戦略・経営理念とは		
		3	4/22	経営理念について学ぶ (グループワーク)		
		4	5/13	経営理念について学ぶ (グループワーク)		
		2. 目標検定・資格		5	5/20	経営理念について学ぶ (グループワーク発表)
			受験対象	6	5/27	経営戦略の立て方 (準備・分析)
		実施日		7	6/3	経営戦略の立て方 (準備・分析)
		3. 学習上の留意点		8	6/10	事業の展開について
		<p>ビジネスの聞きなれない言葉がたくさん出てくるため、語彙の事前学習が必要です。</p>		9	6/17	事業の展開について
				10	6/24	ビジネスモデルについて (様々な種類)
				4. テキスト		11
		必要な時に配布します。		12	7/8	ビジネスモデルを考える (グループワーク)
		5. 成績評価の方法・基準		13	7/22	ビジネスモデルを考える (グループワーク)
		<p>出席率80%以上必須 A 総合評価 90点以上 B 総合評価 70点以上、90点未満 C 総合評価 60点以上、70点未満 D 総合評価 60点未満→単位不認定 ※ビジネスプランの発表の点数(60%)に、授業態度(40%)などを加味し、総合的に判断する。 ※発表時の欠席については80%の点数をもって、後日に行なう。</p>		14	7/29	ビジネスモデルを考える (グループワーク)
15	8/2			ビジネスモデルを考える (グループワーク発表)		
評価 試験						

科名	国際ビジネス科	コース名	国際ビジネスコース	学年・クラス	2F	
講義名	経営戦略B		回数	講義期間	曜日・時限	教室
			15	前期	水3	402
担当者	坂口 和江		実務経験	必修・選択	授業形態	単位数
				必修	講・演	2
					備考	

1. 講義の概要と目的		6. 講義計画(シラバス)		
1年次で学んだ経営についての知識を活かし、経営戦略の役割をより詳しく学びます。授業ではグループワークで話し合い、情報を集め、資料を整理し、発表を行い、理解を深め、発表する自信がつくよう進めています。		No.	日付	授業内容
		1	4/8	授業概要説明 グループ分け
2. 目標検定・資格		2	4/15	企業の仕組み 経営戦略・経営理念とは
		3	4/22	経営理念について学ぶ (グループワーク)
実施日		4	5/13	経営理念について学ぶ (グループワーク)
		5	5/20	経営理念について学ぶ (グループワーク発表)
3. 学習上の留意点		6	5/27	経営戦略の立て方 (準備・分析)
ビジネスの聞きなれない言葉がたくさん出てくるため、語彙の事前学習が必要です。		7	6/3	経営戦略の立て方 (準備・分析)
4. テキスト		8	6/10	事業の展開について
		9	6/17	事業の展開について
必要な時に配布します。		10	6/24	ビジネスモデルについて (様々な種類)
		11	7/1	ビジネスモデルについて (様々な種類)
5. 成績評価の方法・基準		12	7/8	ビジネスモデルを考える (グループワーク)
		13	7/22	ビジネスモデルを考える (グループワーク)
出席率80%以上必須 A 総合評価 90点以上 B 総合評価 70点以上、90点未満 C 総合評価 60点以上、70点未満 D 総合評価 60点未満→単位不認定 ※ビジネスプランの発表の点数(60%)に、授業態度(40%)などを加味し、総合的に判断する。 ※発表時の欠席については80%の点数をもって、後日に行なう。		14	7/29	ビジネスモデルを考える (グループワーク)
		15	8/2	ビジネスモデルを考える (グループワーク発表)
		評価		
		試験		

科名	国際ビジネス科	コース名	国際ビジネスコース	学年・クラス	2F	
講義名	簿記B		回数	講義期間	曜日・時限	教室
			15	前期	金2	402
担当者	竹内 玲子		実務経験	必修・選択	授業形態	単位数
			有	必修	演習	1

1. 講義の概要と目的		6. 講義計画(シラバス)	
前期に学習した簿記の基礎知識をふまえて、企業の取引のしくみ、記帳のしくみ、帳簿決算までを学習します。		No.	日付
		授業内容	
2. 目標検定・資格		1	4/12
		仕訳と転記・合計試算表復習 試算表の種類	
受験対象		2	4/19
		試算表の種類 (残高試算表・合計残高試算表)	
実施日		3	4/26
		取引と記帳について 現金・預金・商品売買(分記法・3分法)	
3. 学習上の留意点		4	5/10
		取引と記帳について 商品売買(仕入・売上・商品有高帳) 掛け取引(売掛金・買掛金)	
前期に学習した勘定科目のほかに、新しい科目や書式がたくさん出てきます。1つ1つ覚えて、後期に学ぶ決算整理また検定試験受験のために身に付けていきましょう。		5	5/17
		取引と記帳について 手形取引・小切手の扱い	
4. テキスト		6	5/24
		取引と記帳について その他の債権・債務1	
プリント (日商簿記3級テキストより抜粋) 日商簿記検定模擬試験問題集3級商業簿記(実教出版)		7	5/31
		取引と記帳について その他の債権・債務2	
5. 成績評価の方法・基準		8	6/7
		取引と記帳について 有価証券・固定資産・純資産・税金	
出席率80%以上必須、期末試験60%未満は追試 A 総合評価 90点以上 B 総合評価 70点以上、90点未満 C 総合評価 60点以上、70点未満 D 総合評価 60点未満→単位不認定 ※期末試験の点数(60%)に、検定合否・授業態度(40%)などを加味し、総合的に判断する。 ※再試験については80%の点数をもって、C評価とする。		9	6/14
		伝票とは 3伝票制・伝票の集計と転記	
評価試験		10	6/21
		精算表の作成	
		11	6/28
		決算手続・帳簿決算について	
		12	7/5
		精算表作成→損益計算書と貸借対照表	
		13	7/12
		精算表作成→損益計算書と貸借対照表	
		14	7/19
		精算表作成→損益計算書と貸借対照表	
		15	7/26
		確認テスト	

科名	国際ビジネス科	コース名	国際ビジネスコース	学年・クラス	1 F(A)		
講義名	異文化理解		回数	講義期間	曜日・時限	教室	
			15	前期	月1	404	
担当者	森 慶子		実務経験	必修・選択	授業形態	単位数	備考
				必修	講・演	1	

1. 講義の概要と目的		6. 講義計画(シラバス)		
グローバルな価値観を養うため、日本や諸外国の食文化、祭り、冠婚葬祭など自分の国の文化と比較しながら学び、それぞれのテーマについてクラス内で発表する。		No.	日付	授業内容
		1	4/8	異文化理解とは・・・ 授業をするにあたっての注意とルール 各自の国紹介
2. 目標検定・資格		2	4/15	非言語コミュニケーション(ボディランゲージ、フェイスエクプレッション、時間、パーソナルスペース)
		3	4/22	
なし		4	5/13	
		5	5/20	
実施日		6	5/27	世界の結婚式
3. 学習上の留意点		7	6/3	結婚式発表とまとめ
		8	6/10	世界のお葬式
さまざまな国の学生たちの文化や習慣を共有するにあたり、偏見やステレオタイプな考えを持たないようにする。また、自分の国についての発表を多数行うため、各自積極的な参加が必要とされる。		9	6/17	お葬式発表とまとめ
		10	6/24	世界の祭り
4. テキスト		11	7/1	祭りの発表とまとめ
なし		12	7/8	世界の食文化
		13	7/22	食文化発表とまとめ
5. 成績評価の方法・基準		14	7/29	各国の料理試食会
		15	8/2	まとめ
		評価試験		

科名	国際ビジネス科	コース名	国際ビジネスコース	学年・クラス	1F(B)
講義名	異文化理解		回数	講義期間	曜日・時限
			15	前期	月1
担当者	江連 麻子		実務経験	必修・選択	1
				必修	講・演
					単位数
					1
					備考

1. 講義の概要と目的		6. 講義計画(シラバス)		
<p>グローバルな価値観を養うため、日本および諸外国の冠婚葬祭について自分の国の文化と比較しながら学び、それぞれのテーマについてクラス内で発表する。</p> <p>2. 目標検定・資格</p> <p>受験対象</p> <p>実施日</p> <p>3. 学習上の留意点</p> <p>日本社会でグローバル人材として活躍するためには、基本的な文化の知識を身につけるだけでなく、クラスメイトの出身国や諸外国の様式を知り意見を交わすことなどを通じて多角的に物事を捉えられるようにすることが求められる。</p> <p>4. テキスト</p> <p>なし</p> <p>5. 成績評価の方法・基準</p> <p>出席率80%以上必須 A 総合評価 90点以上 B 総合評価 70点以上、90点未満 C 総合評価 60点以上、70点未満 D 総合評価 60点未満→単位不認定 ※各テーマの発表の点数(60%)に、授業態度(40%)などを加味し、総合的に判断する。</p>		No.	日付	授業内容
		1	4/8	異文化理解とは・・・ 授業をするにあたっての注意とルール 各自の国紹介
		2	4/15	非言語コミュニケーション(ボディランゲージ、フェイスエクプレッション、時間、パーソナルスペース)
		3	4/22	
		4	5/13	日本および世界の結婚式 自国についてのリサーチ&話し合い
		5	5/20	自国の結婚式発表準備
		6	5/27	発表、意見交換、まとめ
		7	6/3	日本および世界のお葬式 自国についてのリサーチ&話し合い
		8	6/10	自国のお葬式発表準備
		9	6/17	発表、意見交換、まとめ
		10	6/24	日本の祭および世界の祭 自国についてのリサーチ&話し合い
		11	7/1	自国の祭発表準備
		12	7/8	発表、意見交換、まとめ
		13	7/22	日本の成人式および世界の成人式 自国についてのリサーチ&話し合い
		14	7/29	自国の成人式発表準備
15	8/2	発表、意見交換、まとめ		
評価試験	なし	各テーマの発表を成績評価とする		

科名	国際ビジネス科	コース名	国際ビジネスコース	学年・クラス	2F		
講義名	国際理解		回数	講義期間	曜日・時限	教室	
			15	前期	火2	402	
担当者	雫石佳男		実務経験	必修・選択	授業形態	単位数	備考
				必修	講・演	1	

1. 講義の概要と目的		6. 講義計画(シラバス)				
<p>この講義では、現代人が常識として理解している文化、社会について共同で勉強します。勉強した成果は共同でプレゼンテーションします。グループの意見を調整して、共同で作業することは、ビジネスにおいてとても役に立つからです。</p> <p>2. 目標検定・資格</p> <p>受験対象</p> <p>実施日</p> <p>3. 学習上の留意点</p> <p>とくに予習や復習は必要ありません。講義中に作成した資料や発表内容を成果として、学習の達成度を評価しますので、積極的に参加してください。</p> <p>4. テキスト</p> <p>なし</p> <p>5. 成績評価の方法・基準</p> <p>※ 単位をとるために ・講義は15回のうち12回以上、出席しなければなりません。 ・総合評価が60点より低い人は、もういちど同じテストをうけなければなりません。そして80点より高い点をとらなければなりません。 ※ 成績の決めかた ・講義中の成果物や発表を成果点とします (成果点×0.6)+(授業態度×0.4)=総合評価 総合評価 90点以上=A 70点以上、90点未満=B 60点以上、70点未満=C 再テスト 80点以上=C 授業態度とは遅刻や欠席の回数、講義中の電話、ゲーム、カンニングなど迷惑行為のことです。</p>		No.	日付	授業内容		
		1	4/9	オリエンテーション 資料作成		
		2	4/16	資料作成		
		3	4/23	発表/質疑応答①		
		4	5/7	資料作成		
		5	5/21	資料作成		
		6	5/28	発表/質疑応答②		
		7	6/4	資料作成		
		8	6/11	資料作成		
		9	6/18	発表/質疑応答③		
		10	6/25	資料作成		
		11	7/2	資料作成		
		12	7/9	発表/質疑応答④		
		13	7/16	資料作成		
		14	7/23	資料作成		
15	7/30	発表/質疑応答⑤				
		評価	試験			

科名	国際ビジネス科	コース名	国際ビジネスコース	学年・クラス	2 F		
講義名	世界情勢		回数	講義期間	曜日・時限	教室	
			15	前期	木3	402	
担当者	雫石佳男		実務経験	必修・選択	授業形態	単位数	備考
				必修	講・演	1	

1. 講義の概要と目的		6. 講義計画(シラバス)				
<p>この講義では、日本人が常識として理解している世界情勢について勉強します。日本人の考え方を知ることは、日本人と交流するとき、役に立つからです。</p> <p>2. 目標検定・資格</p> <p>受験対象</p> <p>実施日</p> <p>3. 学習上の留意点</p> <p>とくに予習や復習は必要ありません。自分の国の常識とくらべて、どう違うのか考えてください。自分が知りたいこと、勉強したいことがあれば、時間内に質問できるように用意しておいてください。講義中にテストをして学習の理解度を確認します。</p> <p>5. 成績評価の方法・基準</p> <p>※ 単位をとるために ・講義は15回のうち12回以上、出席しなければなりません。 ・総合評価が60点より低い人は、もういちど同じテストをうけなければなりません。そして80点より高い点をとらなければなりません。 ※ 成績の決めかた ・講義中にしたテストの合計点をテスト点とします。 (テスト点×0.6)+(授業態度×0.4)=総合評価 総合評価 90点以上=A 70点以上、90点未満=B 60点以上、70点未満=C 再テスト 80点以上=C 授業態度とは遅刻や欠席の回数、講義中の電話、ゲーム、カンニングなど迷惑行為のことです。</p>		No.	日付	授業内容		
		1	4/18	総合科目基礎1		
		2	4/25	総合科目基礎2		
		3	5/9	総合科目基礎3		
		4	5/16	総合科目基礎4		
		5	5/23	総合科目基礎5		
		6	5/30	総合科目基礎6		
		7	6/6	総合科目基礎7		
		8	6/13	総合科目基礎8		
		9	6/20	総合科目基礎9		
		10	6/27	総合科目基礎10		
		11	7/4	総合科目基礎11		
		12	7/11	総合科目基礎12		
		13	7/18	総合科目基礎13		
		14	7/25	総合科目基礎14		
15	8/1	総合科目基礎15				
		評価	試験			

科名	国際ビジネス科	コース名	国際ビジネスコース	学年・クラス コース	1F	
講義名	日本観光地理		回数	講義期間	曜日・時限	教室
			15	前期	火1	501
担当者	森 慶子		実務経験	必修・選択	授業形態	単位数
				必修	講・演	2

1. 講義の概要と目的		6. 講義計画(シラバス)				
<p>日本で就職するにあたり必要となる都道府県の場所と日本地理全般を学ぶ。また、旅行業に就職を目指す事も視野に入れ、日本各地の名産や観光地などについても知っておく。</p>		No.	日付	授業内容		
		1	4/9	観光地理とは・日本の観光について		
		2	4/16	都道府県の名称と位置を覚えよう		
		3	4/23	県名・県庁所在地(小テスト)		
		4	5/7	北海道		
		2. 目標検定・資格		5	5/21	東北地方 青森県・岩手県
		特になし	受験対象	6	5/28	宮城県・秋田県
		実施日		7	6/4	山形県・福島県
		3. 学習上の留意点		8	6/11	関東地方 茨城県・栃木県
		都道府県の名称などは覚えるためにかなりの時間がかかると思うので、ホームワークをしっかりと行うなど積極的な参加が必要。		9	6/18	群馬県・埼玉県
		4. テキスト		10	6/25	神奈川県・千葉県
		『よくわかる！日本の都道府県』		11	7/2	東京都
		5. 成績評価の方法・基準		12	7/9	中部地方 新潟県・富山県
		出席率80%以上必須、期末試験60%未満は追試		13	7/16	長野県①
		A 総合評価 90点以上		14	7/23	長野県②
B 総合評価 70点以上、90点未満		15	7/30	石川県・福井県		
C 総合評価 60点以上、70点未満						
D 総合評価 60点未満→単位不認定						
※期末試験の点数(60%)に、検定合否・授業態度(40%)などを加味し、総合的に判断する。						
※再試験については80%の点数をもって、C評価とする。		評価 試験	試験週	筆記試験		

科名	国際ビジネス科	コース名	国際ビジネスコース	学年・クラス	2F	
講義名	地域観光産業		回数	講義期間	曜日・時限	教室
			30	通年	金1	402
担当者	清水 利朗		実務経験	必修・選択	授業形態	単位数
				必修	講義	1

1. 講義の概要と目的		6. 講義計画(シラバス)				
<p>長野県は観光産業の盛んな県です。豊かな自然、多種多様な文化財、温泉・スキー場などの観光資源。県内の至る所に観光地としての魅力が存在しています。この授業ではそんな長野県内の観光資源とその観光産業の在り方をは再発見し、これからの長野県観光の方向性を探ります。特に今後インバウンド観光客の増加を踏まえ、グローバルな視点からの長野県の観光の中に自分たちのアイデアを活かす検証を加えていきます。</p>		No.	日付	授業内容		
		1	4/12	日本の観光(1年日本観光地理の復習)		
		2	4/19	日本の観光(1年日本観光地理の復習)		
		3	4/26	日本の観光(1年日本観光地理の復習)		
		4	5/10	長野県の観光概論		
		2. 目標検定・資格		5	5/17	長野県の観光地 自然
		なし	受験対象	6	5/24	長野県の観光地 文化財・レジャー施設
		3. 学習上の留意点		7	5/31	長野県の観光地 食文化
		<p>講義はプロジェクターによる目で見て確認をする内容が主流となります。ヴィジュアル面で確認をした事柄をいかに記憶させるかに留意して下さい。また、授業の後半では実際の観光現場に出かけその授業の内容を確認するとともに授業の中では触れなかった観光地の魅力を見つけ出して下さい。</p>		8	6/7	長野県の観光地 温泉
				9	6/14	長野県の観光地 まつり・イベント
				10	6/21	長野県の観光 スポーツ
				11	6/28	これからの長野県の観光
		4. テキスト		12	7/5	善光寺フィールドワーク
		5. 成績評価の方法・基準		13	7/12	振替
		<p>出席率80%以上必須、期末試験60%未満は追試 A 総合評価 90点以上 B 総合評価 70点以上、90点未満 C 総合評価 60点以上、70点未満 D 総合評価 60点未満→単位不認定 ※期末試験の点数(60%)に、検定合否・授業態度(40%)などを加味し、総合的に判断する。 ※再試験については80%の点数をもって、C評価とする。</p>		14	7/19	振替
15	7/26			前期試験		
評価 試験						

科名	国際ビジネス科	コース名	国際ビジネスコース	学年・クラス	1 F	
講義名	日本事情		回数	講義期間	曜日・時限	教室
			15	前期	水2	501
担当者	栗石佳男		実務経験	必修・選択	授業形態	単位数
				必修	講義	1

1. 講義の概要と目的		6. 講義計画(シラバス)			
<p>この講義では、日本の社会や文化などについて勉強します。 日本人の考え方をすることは、日本人と交流するとき、役に立つからです。</p> <p>2. 目標検定・資格</p> <p>受験対象</p> <p>実施日</p> <p>3. 学習上の留意点</p> <p>とくに予習や復習は必要ありません。 自分の国とくらべて、どう違うのか考えてください。 自分が知りたいこと、勉強したいことがあれば、時間内に質問できるように用意しておいてください。 講義中にテストをして学習の理解度を確認します。</p> <p>4. テキスト</p> <p>5. 成績評価の方法・基準</p> <p>※ 単位をとるために ・講義は15回のうち12回以上、出席しなければなりません。 ・総合評価が60点より低い人は、もういちど同じテストをうけなければなりません。そして80点より高い点をとらなければなりません。 ※ 成績の決めかた ・講義中にしたテストの合計点で評価します。 (テスト点×0.6)+(授業態度×0.4)=総合評価 総合評価 90点以上=A 70点以上、90点未満=B 60点以上、70点未満=C 再テスト 80点以上=C 授業態度とは遅刻や欠席の回数、講義中の電話、ゲーム、カンニングなど迷惑行為のことです。</p>		No.	日付	授業内容	
		1	4/10	日本の基礎知識1	
		2	4/17	日本の基礎知識2	
		3	4/24	日本の基礎知識3	
		4	5/8	日本の基礎知識4	
		5	5/15	日本の基礎知識5	
		6	5/22	日本の基礎知識6	
		7	5/29	日本の基礎知識7	
		8	6/5	日本人の生活1	
		9	6/19	日本人の生活2	
		10	6/26	日本人の生活3	
		11	7/3	日本人の生活4	
		12	7/10	日本人の生活5	
		13	7/17	日本人の生活6	
		14	7/24	日本人の生活7	
15	7/31	日本人の生活8			
		評価	試験		

科名	国際ビジネス科	コース名	国際ビジネスコース	学年・クラス	2F	
講義名	ディスカッション		回数	講義期間	曜日・時限	教室
			15	前期	月2	402
担当者	森 慶子		実務経験	必修・選択	授業形態	単位数
				必修	演習	1

1. 講義の概要と目的		6. 講義計画(シラバス)		
様々な社会問題(環境、人権、宗教問題等)から最新のニュースまでを理解し、論理的に考え、自分の意見を持ってディスカッションすることができる。ディスカッション内容をまとめ、自らの主張を論文にまとめ伝えることができる。		No.	日付	授業内容
		1	4/8	ディスカッションとは?(方法/注意/ルール)テーマ探し
2. 目標検定・資格		2	4/15	ディスカッション1「社会問題1」&まとめ
		3	4/22	ディスカッション2「社会問題2」&まとめ
実施日		4	5/13	ディスカッションテーマ1 or 2の小論文作成
		5	5/20	ディスカッション3「時事ニュース1」&まとめ
3. 学習上の留意点		6	5/27	ディスカッション4「時事ニュース2」&まとめ
		7	6/3	ディスカッションテーマ3 or 4の小論文作成
人の意見を尊重し理解した上で、自分の意見を上手に人に伝えることが大切になります。一方的な討論ではなく意見交換になると良いでしょう。新しい語彙を覚えて積極的に使ってみること。		8	6/10	ディスカッション5「身近なニュース」&まとめ
		9	6/17	ディスカッション6「身近なニュース」&まとめ
4. テキスト		10	6/24	ディスカッションテーマ5 or 6の小論文作成
		11	7/1	ディスカッションまとめ
5. 成績評価の方法・基準		12	7/8	小論文作成
		13	7/22	小論文作成・発表
出席率80%以上必須 A 総合評価 90点以上 B 総合評価 70点以上、90点未満 C 総合評価 60点以上、70点未満 D 総合評価 60点未満→単位不認定 ※論文の点数(60%)に、授業態度(40%)などを加味し、総合的に判断する。 ※発表時の欠席については80%の点数をもって、後日に行なう。		14	7/29	小論文発表
		15	8/2	小論文発表
		評価試験		

科名	国際ビジネス科	コース名	国際ビジネスコース	学年・クラス	1F(A)
講義名	スピーチ&プレゼンテーション		回数	講義期間	曜日・時限
			15	前期	金1
担当者	森 慶子		実務経験	必修・選択	授業形態
				必修	講・演
					単位数
					1
					備考

1. 講義の概要と目的		6. 講義計画(シラバス)	
概要: ・発音練習 ・1～3分間スピーチ 目的: ・聞きやすくわかりやすい発音で発話する ・人前で話すことに慣れる ・わかりやすい構成を組み立てられるようにする		No.	日付
2. 目標検定・資格		授業内容	
	受験対象	1	4/12
		・オリエンテーション ・発音自己分析 ・スピーチの構成	
		2	4/19
		・発音練習 ・1分スピーチ原稿作成 ・1分スピーチ発表	
		3	4/26
		・発音練習 ・1分スピーチ原稿作成 ・1分スピーチ発表	
		4	5/10
		・発音練習 ・1分スピーチ原稿作成 ・1分スピーチ発表	
		5	5/17
		・発音練習 ・1分スピーチ原稿作成 ・1分スピーチ発表	
		6	5/24
		・発音練習 ・2分スピーチ原稿作成 ・2分スピーチ発表	
		7	5/31
		・発音練習 ・2分スピーチ原稿作成 ・2分スピーチ発表	
		8	6/7
		・発音練習 ・2分スピーチ原稿作成 ・2分スピーチ発表	
		9	6/14
		・発音練習 ・2分スピーチ原稿作成 ・2分スピーチ発表	
		10	6/21
		・発音練習 ・2分スピーチ原稿作成 ・2分スピーチ発表	
		11	6/28
		・発音練習 ・3分スピーチ原稿作成 ・3分スピーチ発表	
		12	7/5
		・発音練習 ・3分スピーチ原稿作成 ・3分スピーチ発表	
		13	7/12
		・発音練習 ・3分スピーチ原稿作成 ・3分スピーチ発表	
		14	7/19
		・発音練習 ・3分スピーチ原稿作成 ・3分スピーチ発表	
		15	7/26
		3分間スピーチ	
		評価	
		試験	
3. 学習上の留意点 ・自分の発音の弱点を知り、普段から意識して発話するようにする ・発音や人前で話すことなど「苦手」なことを苦手なままにせず、克服できるように努力する			
4. テキスト			
5. 成績評価の方法・基準			
・出席率80%以上必須 ・総合評価(期末試験60%+授業態度40%) A=90点～100点 B=70点～89点 C=60点～69点 D=0点～59点 ⇒単位不認定			
※単位不認定の場合、再試験を行い、80点以上でC評価とする。			

科名	国際ビジネス科	コース名	国際ビジネスコース	学年・クラス	1F(B)
講義名	スピーチ&プレゼンテーション	回数	講義期間	曜日・時限	教室
		15	前期	金1	501
担当者	江連 麻子	実務経験	必修・選択	授業形態	単位数
			必修	講・演	1

1. 講義の概要と目的		6. 講義計画(シラバス)		
<p>概要: ・発音練習 ・1~3分間スピーチ</p> <p>目的: ・聞きやすくわかりやすい発音で発話する ・人前で話すことに慣れる ・説得力のある、理解しやすい構成を組み立てられるようにする</p> <p>2. 目標検定・資格</p> <p>受験対象</p> <p>実施日</p> <p>3. 学習上の留意点</p> <p>・自分の発音の弱点を知り、普段から意識して発話するようにする ・発音や人前で話すことなど「苦手」なことを苦手なままにせず、克服できるように努力する</p> <p>4. テキスト</p> <p>5. 成績評価の方法・基準</p> <p>・出席率80%以上必須 ・総合評価(期末試験60%+授業態度40%) A=90点~100点 B=70点~89点 C=60点~69点 D=0点~59点 →単位不認定</p> <p>※単位不認定の場合、再試験を行い、80点以上でC評価とする。</p>		No.	日付	授業内容
		1	4/12	・オリエンテーション ・発音自己分析 ・スピーチの構成 ・発音練習
		2	4/19	・1分スピーチ原稿作成 ・1分スピーチ発表 ・発音練習
		3	4/26	・1分スピーチ原稿作成 ・1分スピーチ発表 ・発音練習
		4	5/10	・1分スピーチ原稿作成 ・1分スピーチ発表 ・発音練習
		5	5/17	・1分スピーチ原稿作成 ・1分スピーチ発表 ・発音練習
		6	5/24	・2分スピーチ原稿作成 ・2分スピーチ発表 ・発音練習
		7	5/31	・2分スピーチ原稿作成 ・2分スピーチ発表 ・発音練習
		8	6/7	・2分スピーチ原稿作成 ・2分スピーチ発表 ・発音練習
		9	6/14	・2分スピーチ原稿作成 ・2分スピーチ発表 ・発音練習
		10	6/21	・2分スピーチ原稿作成 ・2分スピーチ発表 ・発音練習
		11	6/28	・3分スピーチ原稿作成 ・3分スピーチ発表 ・発音練習
		12	7/5	・3分スピーチ原稿作成 ・3分スピーチ発表 ・発音練習
		13	7/12	・3分スピーチ原稿作成 ・3分スピーチ発表 ・発音練習
		14	7/19	・3分スピーチ原稿作成 ・3分スピーチ発表 ・発音練習
15	7/26	3分間スピーチ		
評価	なし	3分間スピーチの評価を期末試験に充当する。		

科名	国際ビジネス科	コース名	国際ビジネスコース	学年・クラス	1F	
講義名	ビジネス検定対策A		回数	講義期間	曜日・時限	教室
			15	前期	木1	501
担当者	江連 麻子		実務経験	必修・選択	授業形態	単位数
				必修	講義・演習	1

1. 講義の概要と目的		6. 講義計画(シラバス)	
概要: 日本漢字能力検定の合格を目指し、使える漢字力を養う。		No.	日付 授業内容
目的: 自分の漢字力に合わせて漢検を取得し、就職の際に自己アピール材料に出来るようにする。		1	4/18 オリエンテーション
2. 目標検定・資格		2	4/25 検定対策1
		3	5/9 検定対策2
日本漢字能力検定(能力に合わせ、個別の検定級を選択する) 受験対象 希望者全員		4	5/16 検定対策3
		5	5/23 検定対策4
実施日 6月16日、10月20日、2月16日		6	5/30 検定対策5
3. 学習上の留意点		7	6/6 検定対策6
漢字が実際にどのくらい書けて読めるのかが証明できれば、就職活動時にも強みになる。日本語力の証明のひとつとして、就職のチャンスをつかむひとつの武器として考えよう。		8	6/13 検定対策7
4. テキスト		9	6/20 検定対策8
		10	6/27 検定対策9
プリント教材		11	7/4 検定対策10
5. 成績評価の方法・基準		12	7/11 検定対策11
出席率80%以上必須、期末試験60%未満は追試		13	7/18 検定対策12
A 総合評価 90点以上		14	7/25 検定対策13
B 総合評価 70点以上、90点未満			
C 総合評価 60点以上、70点未満		15	8/1 検定対策14
D 総合評価 60点未満→単位不認定		計	試験週
※期末試験の点数(60%)に、検定合否・授業態度(40%)などを加味し、総合的に判断する。			模擬試験
※再試験については80%の点数をもって、C評価とする。			

科名	国際ビジネス科	コース名	国際ビジネスコース	学年・クラス	1F	
講義名	ビジネス検定対策A		回数	講義期間	曜日・時限	教室
			15	前期	木1	404
担当者	雫石佳男		実務経験	必修・選択	授業形態	単位数
				必修	講・演	1

1. 講義の概要と目的		6. 講義計画(シラバス)					
<p>PJCやBJTなどのテストはビジネス検定とい います。 ビジネス検定でいいスコアをとれば、日本の 会社に対して役に立つ力があることをアピ ールしやすくなります。 この講義では、日本の会社で使うことになる 日本語でのコミュニケーションや日本のビジ ネス用語などを学習します。 学習の目的は、ビジネス検定で、より高いス コアをとることと、学習を通じて日本のビジ ネス習慣になれることです。</p> <p>2. 目標検定・資格</p> <table border="1"> <tr> <td>BJT(スコア式)</td> <td>受験対象 希望者</td> </tr> </table> <p>実施日 2020年1月(予定)</p> <p>3. 学習上の留意点</p> <p>文章の問題では、JLPTでは学習しなかつた 硬い表現や、ビジネスで使う語彙が出てき ます。それがどういう意味なのか、自分の国 の言葉でわかるように工夫してください。</p> <p>4. テキスト</p> <p>ビジネス日本語用例辞典</p> <p>5. 成績評価の方法・基準</p> <p>※ 単位をとるために ・講義は15回のうち12回以上、出席しなければなりません。 ・総合評価が60点より低い人は、もういちど同じ テストをうけなければなりません。そして80点よ り高い点をとらなければなりません。 ※ 成績の決めかた ・講義中にしたテストの合計点をテスト点とします。 (テスト点×0.6)+(授業態度×0.4)=総合評価 総合評価 90点以上=A 70点以上、90点未満=B 60点以上、70点未満=C 再テスト 80点以上=C 授業態度とは遅刻や欠席の回数、講義中の電話、ゲー ム、カンニングなど迷惑行為のことです。</p>		BJT(スコア式)	受験対象 希望者	No.	日付	授業内容	
		BJT(スコア式)	受験対象 希望者				
		1	4/18	検定対策1			
		2	4/25	検定対策2			
		3	5/9	検定対策3			
		4	5/16	検定対策4			
		5	5/23	検定対策5			
		6	5/30	検定対策6			
		7	6/6	検定対策7			
		8	6/13	検定対策8			
		9	6/20	検定対策9			
		10	6/27	検定対策10			
		11	7/4	検定対策11			
		12	7/11	検定対策12			
		13	7/18	検定対策13			
14	7/25	検定対策14					
15	8/1	検定対策15					
		評価 試験					

科名	国際ビジネス科	コース名	国際ビジネスコース	学年・クラス	2F
講義名	ビジネス検定対策B		回数	講義期間	曜日・時限
			15	前期	木4
担当者	森 慶子		実務経験	必修・選択	授業形態
				必修	演習
					単位数
					1
					備考

1. 講義の概要と目的		6. 講義計画(シラバス)		
概要: 日本漢字能力検定の合格を目指し、使える漢字力を養う。		No.	日付	授業内容
目的: 自分の漢字力に合わせて漢検を取得し、就職の際に自己アピール材料に出来るようにする。		1	4/18	オリエンテーション
2. 目標検定・資格		2	4/25	検定対策1
日本漢字能力検定(能力に合わせ、個別の検定級を選択する)		3	5/9	検定対策2
受験対象 希望者全員		4	5/16	検定対策3
実施日	6月16日、10月20日、2月16日	5	5/23	検定対策4
3. 学習上の留意点		6	5/30	検定対策5
漢字が実際にどのくらい書けて読めるのが証明できれば、就職活動時にも強みになる。日本語力の証明のひとつとして、就職のチャンスをつかむひとつの武器として考えよう。		7	6/6	検定対策6
4. テキスト		8	6/13	検定対策7
プリント教材		9	6/20	検定対策8
5. 成績評価の方法・基準		10	6/27	検定対策9
出席率80%以上必須、期末試験60%未満は追試		11	7/4	検定対策10
A 総合評価 90点以上		12	7/11	検定対策11
B 総合評価 70点以上、90点未満		13	7/18	検定対策12
C 総合評価 60点以上、70点未満		14	7/25	検定対策13
D 総合評価 60点未満→単位不認定		15	8/1	検定対策14
※期末試験の点数(60%)に、検定合否・授業態度(40%)などを加味し、総合的に判断する。		評価		模擬試験
※再試験については80%の点数をもって、C評価とする。		試験		

科名	国際ビジネス科	コース名	国際ビジネスコース	学年・クラス	2F	
講義名	接客スキル(POP)		回数	講義期間	曜日・時限	教室
			15	前期	木2	402
担当者	村松 康子		実務経験	必修・選択	授業形態	単位数
				選択	演習	1

1. 講義の概要と目的		6. 講義計画(シラバス)			
<p>販売に不可欠であるPOPの手書きの基礎を学びます。市場の差別化がなくなっている現状の中で、販売員の生の声を情報として伝え、購買に向かわせる手段としての手書きPOPの重要性が見直されてきています。その書き方を基礎から学んでいきます。お客様の足を止めさせいかに購買に向かわせるか・・・その為のレタリング・レイアウト・キャッチフレーズ等を学び練習を重ねます。</p>		No.	日付	授業内容	
		1	4/18	販売促進POP広告についての説明 それぞれの国の販売と日本との違いの確認 マジックの使い方ストロークの練習	
		2	4/25	角ゴシック体(風)のカタカナの練習	
		3	5/9	角ゴシック体(風)のカタカナ・数字の練習	
		4	5/16	角ゴシック体(風)カタカナ・数字の練習 簡単なプライスカードの作成	
		2. 目標検定・資格	5	5/23	角ゴシックと丸ゴシックの違いの説明 丸ゴシック体の文字練習
			受験対象		
		実施日	6	5/30	角ゴシック体(風)ひらがなの練習
		3. 学習上の留意点	7	6/6	角ゴシック体(風)ひらがなの練習 アルファベットの練習
		レタリングや紙面上のレイアウトが重要になります。また売ろうとする物や告知する事柄に関しての お客様の目を捕えるキャッチコピーも重要です。そしてそれらを時間内にまとめ上げるスピードを身に付けることが大切です。雑な仕上がりにならないことも重要です。	8	6/13	簡単なプライスカード・ショーカードの作成
		4. テキスト	9	6/20	角ゴシック体(風)漢字の練習
			10	6/27	角ゴシック体(風)漢字の練習 装飾文字の説明&練習
		5. 成績評価の方法・基準	11	7/4	装飾文字の練習 装飾文字を使ってPOP制作
		出席率・授業態度・提出物により判断します。	12	7/11	飾ケイの説明 飾ケイを使った作品の変化を良く理解しPOP作品に応用する。
			13	7/18	POP作成(プライスカード) 作品張出添削
	14	7/25	POP作成(ショーカード) 作品張出添削		
	15	8/1	ポスター的POPの説明 ポスター的POPの作成		
	評価 試験				